

## 公開講座記録

開講期間： 第1・2回 2002年7月 6日（土）  
第3・4回 7月13日（土）

テーマ： 家族の変容と病理 III  
——家族問題への処方箋——

いま、家族が注目されている。少子・高齢化をはじめ、さまざまな社会問題が、家族をめぐる生起している。また、種々の社会病理現象の原因として、家族にその責任を帰する議論も少なくない。生活の基盤である家族のあり方が改めて問われている。

戦後の日本人の生活の歩みの中で、家族ほどその変貌の激しいものはないと言われている。この50余年の間に、日本の家族はどのような変容を遂げたのか。危機に瀕しているといわれる家族は、どのような問題を抱えているのか。そして、家族はどこへ行こうとしているのか。

今年度は、家族の危機における家族のサポート体制の問題、非行・不登校・引きこもりの問題などを具体的な事例として取り上げる。あわせて、本シリーズのまとめとして、家族の危機克服のための処方箋や家族のあるべき姿、家族の将来像を展望する。

### 第1回 家族の危機と支援体制——家族ががんになった時——

文教大学人間科学部助教授 大木 桃代

1. ソーシャル・サポート (social support)  
周囲の様々な人々からの有形・無形の援助（社会的支援）のこと
2. ソーシャル・サポートの種類
  - (1) 道具的サポート：何らかの形で問題解決に力を貸す
    - a) 直接的サポート：直接問題解決に手を貸す
    - b) 間接的サポート：問題解決に必要な情報を与える
  - (2) 社会情緒的サポート：相手の情緒面に好ましい影響を与える
    - a) 情緒的側面へのサポート：愛情や親愛を示す
    - b) 認知的側面へのサポート：自己評価を高めるような情報を与える
3. ソーシャル・サポートの効果
  - (1) ソーシャル・サポートの効果の諸説
    - a) ストレス緩和効果説：ストレス少→心身の健康に影響を及ぼさない  
ストレス多→ストレスの影響を緩和するように作用



わりを考えていきます。

□ 子どもたちにみられるさまざまな問題を理解する視点

ここでは“家族”という視点から不登校のタイプ（神経症型・無気力型・怠学型）とそれぞれの心理的メカニズム、家庭内暴力の心理的メカニズムや非行の心理的メカニズムを主に解説します。これらに関するキーワードとして“自分にとって居心地のよい場所＝安心できる場所”と“自分らしさ”を挙げておきます。

□ 問題を抱えた子どもたちへの関わりのヒント

最後に子どもへの関わり方を考えます。こどもの問題があらわれる前の関わり方に問題がある事もしばしばですが、実際に問題が表面化してからの関わり方が悪いパターンで固まってしまう問題をさらにこじらせてしまうことの方がいっそう問題です。悪い関わりのパターンを抜け出すことが重要です。

### 第3回 家族はどう変ってきたのか？——家族心理学から見た家族の諸問題——

文教大学名誉教授 岡 堂 哲 雄

★ 家族心理学成立の心理社会的背景

子育て問題と母性喪失、青少年問題（不登校・非行等）、20代の引きこもり。  
第1次離婚ブーム（1981－86年）、子ども人口の減少など

● 生命の循環（ライフサイクル）を支える仕組みの崩壊

① 血縁の絆の衰退：家族の孤立化・密室化

核家族における家族機能のアウトソーシング（外注化）

- 養育・扶養機能：子育て・教育の外注化、老親扶養の外注化（各種老人施設）
- 生活支持機能：衣食住の外注化、ファミレス、コンビニなど
- 情緒安定機能：団欒喪失、家庭外に安心求めてカウンセリングなど

② 地縁の輪の消滅：近隣の相互支援関係の崩壊、困ったときは電話相談  
ジコチュウの増殖、利己主義の浸透、コミュニティの解体化

③ 社縁の影響力が減衰：タテ社会の衰退、歴史感覚の麻痺  
すべてが平等でなければならない。寺社の聖職者、年長者への敬意は誤り。

#### 家族心理学の主要課題

1. 家族関係への心理学的支援：家族療法・家族カウンセリングなど
2. 家族関係の健全発達を支援する家族教育機会の提供

#### 第4回 家族はどこへ行くのか？——家族の未来と家族問題への処方箋——

文教大学名誉教授 岡 堂 哲 雄

- ★ 人間という種は、時代を超えて、雄雌がペアになる構造をもつといわれてきた。  
フランスでは1999年に、同性愛のカップルに結婚に準じた地位を与える「PACS法」が公布された。
- 家族の様々な姿と、その変貌
  - 多世代同居家族、 ○ 養親子家族、 ○ 継親子家族
  - 核家族（父母と子、母子家庭、父子家庭）
  - 継続家族
  - 別居カップル家族、 ○ 非婚同棲カップル
  - 同性愛カップル家族
- ★ 今日わが国家族が直面する課題への対処に関する提言
  - 第2次離婚ブーム（1992年から）を終焉させることができるか……
  - ① 若年離婚の予防には、パートナーズ・テストの普及と婚前カウンセリング  
[若年離婚：結婚後5年未満の離婚]
  - ② 幼児を持つ家族の離婚には、離婚式・幼児福祉を主とするケア・カウンセリング
  - 子育て支援ネットワーク
  - 老親扶養・高齢者介護にはケア・カウンセリングによる支援

#### 参考文献

- 市川孝一：『人気者の社会心理史』学陽書房 2002年
- 岡堂哲雄著：『家族カウンセリング』金子書房 2000年
- 日本家族心理学会監修：『家族心理学事典』金子書房 1999年
- 岡堂哲雄編：『家族論・家族関係論』系看 別巻15 医学書院 1997年
- 岡堂哲雄著：『家族心理学講義』金子書房 1991年